



OFC NEWS

2002 年9月10日号

Vol. 12

大川こども & 内科クリニック

インフルエンザワクチン10月15日接種開始
予約受付中、日曜日でもいいですよ

昨年度OFCFCでインフルエンザの予防接種を受けられた方は延べ1864名、インフルエンザと診断された方は215名でした。診断された方のうちインフルエンザの予防接種を受けられていた方は15名でした。接種されながらインフルエンザに罹られた方にはお気の毒ですが、やはり予防効果は十分と考えられます。最近では診断キットや特効薬があり罹患しても大丈夫と考えがちですが、診断が遅れた場合を考えますと予防は最大の防御方法です。小児では場合によっては特効薬の投与ができないときもあります。幼児および1歳以下の乳児・65歳以上の年長者の方は是非お受けください。その他持病がある方、老人施設や療養所をご利用の方、ご勤務されている方は必ず接種されてください。今年も65歳以上の方には接種に対して公費負担が受けられます。インフルエンザワクチンは不活化ワクチン(ウイルスの一部)であり接種しても、発症する事はなく妊娠されている方、乳児でも安全です。また2ヶ月ぐらいいか効果がないという意

見にも根拠がありません。10月接種でも十分に3月まで有効です。一番大切なのは流行する前に接種することです。OFCFCでは10月15日より接種を開始します。月曜と土曜の午前中を除くどの時間帯でも行ないます。予防接種時間帯では予約電話で、他の時間帯では受付電話(3758-0920)でお申し込み下さい。また日曜・休日午前中も接種することがあります。受付電話で御確認下さい。65歳過ぎの方にとってインフルエンザと並んで恐ろしい肺炎に肺炎球菌性肺炎があります。この細菌は乳幼児の子供が保菌している場合が多く、従って熱が出ているお孫さんの面倒をみていると罹る事があります。家族の愛情がとんでもないことにもなりかねません。65歳過ぎの方は肺炎球菌ワクチンの接種も受けましょう。OFCFCではインフルエンザの医療券をお持ちの方には希望されればインフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンのセットでご利用しやすく予約を受け付けています。

秋の診療体制 ～休日診療～

9月、10月、11月、12月の休日診療の予定です。いずれも午前中のみ診療致します。11月以降はインフルエンザの予防接種もおこないます。またこの時期は学会シーズンですので、臨時的代診あるいは休診になることがあります。電話等で御確認下さい。

休日診療

9月8日、22日
10月6日、20日
11月3日、17日(インフルエンザ接種可)
12月1日、22日(インフルエンザ接種可)

OCFC INFORMATION

熱発する子供の診療

OCFC ではできるだけ抗生剤の使用を控え、必要のある患者さんにだけ投与したいと考えております。そのために1日様子を見る事(one day observation : ODO)を勧める場合があります。それは小児の発熱が治療しなくても半数近くが1日で解熱したり、また喉の所見が1日後にハッキリする場合があります。勿論溶連菌等初日から咽頭所見がハッキリしている場合は抗生剤を使用します。また日頃から抗生剤を使用しないと解熱しない子供(扁桃病巣感染症や反復性尿路感染症に罹患している患者さんなど)には投与致します。2歳以下で上気道の症状(咽頭発赤、咳など)がなく鼓膜の発赤や大泉門がはれていない(中耳炎や髄膜炎ではない)さらに尿が汚れていない(尿路感染症でない)様であれば抗生剤は原則として出しません。発熱以外に症状のない方は来院時に看護婦さんに相談して採尿の準備(採尿パックをつける)をしておいてください。2~3歳の幼児ではノドの所見に異常がなく、他に細菌感染症の所見がなければODO とします。いずれにしても発熱があるものの、食欲特に飲水が十分にできて、気嫌がいい場合です。その都度ご説明しますからご理解下さい。

感染症 だより

猛威をふるうヘルパンギーナ、プール熱

今年のヘルパンギーナは夏の到来が早かったせいか4月より流行しましたが、7月には50名を越えました。2日間の発熱と5日間ぐらいの咽頭痛ですが、例年に比べて食欲の低下は軽く、入院になった方はいらっしゃいませんでした。8月になって急に下火となりました。同じ種類のウイルスによる手足口病は7・8月で25名来院されています。ヘルパンギーナ・手足口病は複数のウイルスにより発症しますので、何回でも罹る事があります。

もう一つの夏風邪はアデノウイルスによるもので、プール熱(咽頭結膜炎)、流行性角結膜炎(はやり目、アポロ病といったときもあります)になります。ある幼稚園ではお泊まり会の前後で流行して大変だったようです。プール熱では熱は5日後続き、抗生剤はやはり効果がありません。顔を拭くタオルなどを別にしないと家族全員にうつることとなります。幼稚園・保育園でも同様です。7月には29名、8月は半減して14名でした。いずれの病気も感染力が強く、お遊び仲間で流行しますので、夏休みなどになると発症は減ってきます。

溶連菌の流行つづく

溶連菌の流行が続いています。7月18名、8月16名です。溶連菌の発疹は抗生剤服用後に出る場合もあり、薬疹との区別が難しいときもあります。大切なのは症状がおさまっても抗生剤を飲みつづけることです。OCFC では抗生剤の副作用を考えてピクシリン・バイシリンなどの投与を標準としています。セフェム系の抗生剤を飲みつづけますと、お腹の中の細菌が全滅して薬の効かない細菌が増えることにもなります。急性糸球体腎炎、リュウマチ熱の発症の危険がありますので、検尿・検査もお忘れなく。

成人にも発症おたふくかぜ

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)が大流行し7月30名、8月20名でした。おたふくかぜは予防接種をしても10名に2名ぐらい発症するといわれており、予防接種していたのにおっしゃるお母さんも多い様でした。2回以上耳下腺部が腫大した患者さんでは抗体検査をしておたふくかぜに何時罹ったか確認しました。おたふくかぜの抗体があれば耳下腺が腫大していても本人さえ元気ならば園や学校を休む必要はありません。成人の方も3名発症しております。

成人の方でおたふくかぜにかかったことがない方には抗体検査をお奨めします。これは発症していなくても抗体ができていない不顕性感染の方が多いためです。実際抗体検査をして陰性の方は10名に1名ぐらいです。抗体陰性の方はワクチン接種が必要です。成人男性では副睾丸炎のため無精子症となり、不妊の原因ともなります。

その他の 感染症

水痘は依然として多く24名、麻疹は1名発症しています。麻疹の患者さんは妊娠されている方で都内の病院に入院となり早産でしたが母子ともに元気になりました。伝染性紅斑(リンゴ病)は21名、嘔吐・下痢症は34名で再び増加しています。1ヶ月近く下痢が続いた方もいらっしゃいました。便培養は4名に行ないましたが0-157を含む病原体は検出されませんでした。7・8月も比較的元気で熱だけが5日以上続く方が12名程来院されています。1名は20日間続き日赤医療センターに入院となりましたが、原因が不明のまま解熱して退院しました。その他の方は抗生剤の投与に関係なく元気に回復されています。

病診連携

関連病院施設にお願いした患者さんは26名で検査3名、外来14名、入院9名でした。

検査紹介では東邦小児科に脳波検査2名、東京医科歯科大学小児科にもやもや病の精査、外来受診では東邦小児科の胸部皮下硬結、無菌性髄膜炎、荏原病院耳鼻科に反復性耳下腺炎、日赤小児外科に睾丸腫大、昭和大呼吸器科に胸部異常陰影の方を紹介致しました。その他池上耳鼻科、田村耳鼻科、栗林耳鼻科に中耳炎や喉頭異物でお願いしております。

入院は大森日赤小児科に肺炎と川崎病、荏原病院小児科に乳児の尿路感染症3名、慢性の乳児下痢症1名、外科に虫垂炎の手術依頼、東邦大学外科にも虫垂炎の手術依頼、日赤医療センターには20日以上続く不明熱の検査・治療で入院をお願い致しました。

点滴 コーナー

点滴治療された方は7月40名、8月20名、の合計60名でした。今回はほとんどの方が咽頭炎あるいは嘔吐下痢症による脱水でした。今回の特徴はウイルス性の無菌性髄膜炎が多かったのが特徴で、おたふくかぜによる無菌性髄膜炎が2名、その他のウイルスと思われる方が1名でした。また、蕁麻疹で受診される方も増加しましたが、重症の蕁麻疹のため2名に点滴を行ないました。

院長のサイエンティフィックアクティビティ(Scientific activities)

7月9・10日に東邦大学医学部4年の学生実習がありました。当日受診された方には御協力頂きありがとうございました。10月8日には東京医科歯科大学医学部看護学科の学生見学があります。引き続き御協力お願い致します。9月28日午前には小山台高校の文化祭でアレルギーについて講演致しますので代診となります。9月14日には血液学会、10月17・18・19日には小児血液学会、10月26日は肝細胞移植学会出席のため代診の予定です。熱を出しやすい患者さんをどう診察するのかについて解説した「易感染性」の別冊があります。興味がおありの方はご覧下さい。4月の小児科学会のレポートの別冊もできました。

診療時間

栄養相談の予約:代表電話で直接予約下さい。
大田区の各種健康診査は火・木の午後2:00~4:00にお越し下さい。検査希望の方は代表電話で直接予約して下さい。

曜日	8:30~12:00	14:00~16:00	16:00~18:00
月	一般(小・内)	一般(小・内)	一般(小・内)
火	一般(小・内)	乳健・予接・ア・慢	一般(小・内)
水	代診(小児科)	一般(小・内)	一般(小・内)
木	一般(小・内)	乳健・予接・ア・慢	一般(小・内)
金	一般(小・内)	乳健・予接・ア・慢	一般(小・内)
土	一般(小・内)	13:00~14:00 乳健・予接、14:00~15:00 一般(小・内) 栄養相談 13:00~15:00 30分ずつ(乳幼児、生活習慣病)	

乳健：乳児健診、予接：予防接種、ア：アレルギー疾患、慢：慢性疾患

電話予約 について

当クリニック(OCFC)では患者さんの待ち時間短縮のため予約制を採用しています。できるだけ電話にて予約を取られるようお願いいたします。空き状況をお聞きの際は、かけなおして予約をお取り下さい。予約希望時間が詰まっている時は希望時間に近い時間帯をご案内いたします。希望時間が取れない方は直接御来院頂ければ順番にて診療いたします。慢性疾患などで十分な説明をご希望の方は電話で直接お尋ね下さい。

■ サービスコード

項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード
小児科一般	11#	乳幼児健診	16#	3種混合	21#	水痘	26#
内科一般	12#	健康診断	17#	2種混合	22#	おたふくかぜ	27#
アレルギー/慢性疾患	13#	インフルエンザ	19#	麻疹	23#	日本脳炎	28#
隔離感染症	14#	確認	20#	風疹	24#	その他	29#
予防接種	15#	取消	30#	インフルエンザ	25#		

予約の空き情報は40#でご案内いたします。予防接種(15#)を押した方はさらにサービスコードで希望される項目を指定して下さい。サービスコードの確認を、よろしければ0# 誤っていれば1#で行って下さい。

院内設備・機器

院内設備:隔離感染症室、電話自動予約機(24時間対応)、空気清浄装置(臓器移植にも対応できる)、オゾン空気清浄・防臭装置(2台)

検査機器:レントゲン装置、自動解析装置付心電計、自動血球分析器、CRP/ASO 測定機、自動検尿器、電子スパイロメーター、血糖測定器、経皮酸素分圧モニター、24時間酸素分圧モニター、聴力検査機器、心電図モニター(点滴施行患者さんモニター用)、チンパノメトリー(中耳炎の診断用)

患者さん 質問箱



私の子供は体が弱く頻繁にお熱が上がります。近くの小児科の先生は何時も喉が腫れていると抗生剤をくれますが、しょっちゅう喉が腫れる場合は扁桃腺を取ったほうがいいでしょうか。

(すぐ熱をだす子を抱きしめながら途方にくれている母)



扁桃はかつてはその役割がよくわかっていなかったため、切り取る(摘出)事が多かったですが現在はその働きが理解され、安易にはおこなわれず一定の基準の基に行なうことになっています。

扁桃の役割とはその位置を考えると理解しやすいのですが、鼻、口からの異物の侵入に対する関所の役割です。細菌やウイルスが侵入すると扁桃にあるリンパ球から抗体をつくって、病原体と戦うわけです。抗体は生まれたときからすぐ作れるわけではなく、徐々に抗体を作る能力が備わってくるようです。その免疫能の発達とともに扁桃も成長し、大きくなります。その発達は4~6歳ぐらいをピークとし、一般的にはその後徐々に縮小するのが普通です。保育園・幼稚園に通うようになったら急に扁桃が肥大したというのはこの自然経過を言っていることもあります。

さて、それでは扁桃を取る基準とはなんでしょうか。まず扁桃が繰り返す感染巣となっている場合で、繰り返す溶連菌を始めとする細菌感染症です。単に喉が腫れている、赤いというだけでは摘出の根拠にはなりません。幼児期ではヘルパンギーナ等のエンテロウイルスや、アデノウイルス、インフルエンザウイルスなどの咽頭を病巣とする病気が多く、しょっちゅう発熱することが多いですがこのことは扁桃を摘出する理由にはなりません。しかし、実際に感染巣がある扁桃あるいはアデノイドを摘出すると発熱が治まるとともに、滲出性中耳炎や副鼻腔炎、腎炎(溶連菌感染の場合)が同時に治ることもあります。また、年に数回以上扁桃が腫れて発熱を繰り返す時は、習慣性扁桃炎・慢性扁桃炎として取る場合もあります。

もう一つの基準は扁桃が肥大しているために睡眠時鼾が強く、呼吸困難になる患者さんです。こういった患者さんにはOCFCでは2晩ぐらい自宅で睡眠時にモニターをつけて頂いて血中の酸素飽和度を調べます。(痛くはありません。)それで異常があれば大学病院に紹介して、1晩脳波と心電図と呼吸を調べ、咽頭肥大が原因であれば扁桃摘出ということになります。その他肥大により飲み込みができない方も取る場合があります。扁桃は感染を防ぐ上で大切な臓器です。摘出すると元には戻せません。取るかどうかの判断は慎重にありたいものです。(OCFC 院長)

一 口 メ モ

扁桃:扁桃は喉(咽頭)を取り囲むように位置する組織です。

この扁桃で摘出することがある部分は口蓋扁桃(一般に扁桃という場合はこの部分を指します)と咽頭扁桃(アデノイドとも呼ばれています。)です。またよく扁桃腺と一般的に呼ぶ場合がありますが、腺とは液成分を分泌する臓器を指しますので、本来は単に扁桃と呼ぶのが正しいことになります。

偏照院駐車場の改良なる。 ~どうぞご利用下さい~

OCFCより50m 蒲田よりに偏照院駐車場があります。いままではばらばらであった駐車スペースを一ヶ所に集め、4台分のスペースで3台の駐車場としました。これまでは狭くていれ難く、乗降にも不便でしたが、拡張することで改善できました。どうぞご利用下さい。駐車はOCFCのマークがあるスペースをお願いします。(下記案内図参照↓)

医療法人社団 オー・シー・エフ・シー (OCFC) 会

OCFC

Okawa Children & Family Clinic

大川こども&内科クリニック

小児科・内科・アレルギー科

東京都大田区多摩川1-6-16

院長 大川 洋二

診療時間:月~金 午前 8:30~12:00 午後 2:00~6:00

土 午前 8:30~12:00 午後 1:00~3:00

(日曜・祝日休診) 駐車場五台あり

予約
専用

03-3758-0099

代表
番号

03-3758-0920

E-mail:ocfc@jeans.ocn.ne.jp

案内図



東急多摩川線 矢口渡駅前